

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		乗用車販売店（従業員）	・現在行われている東京モーターショーで発表された新型車が年末から発売されるため、12月以降はやや良くなる。自動車補助金が続く3月までこの状況が続く。
		乗用車販売店（役員）	・年末に新型車が登場するため、12月以降はやや良くなると考える。また、環境対応車への買換え・購入補助が来年の3月までは続く予定であるため、この状況が続く。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・年末商戦が近づくため、今後は少し良くなる。
		タクシー運転手	・客の話によれば、給料等が下落しているという話題が多いので、不安な面はある。その一方、12月、1月は、忘年会・新年会、買物等、人の動きが活発化すると思う。
		観光名所（職員）	・今後、大きなイベントを予定しており、それにより来客数も伸びる。
	変わらない	商店街（代表者）	・商店街には活気が不足している。
		百貨店（販売促進担当）	・お歳暮などのギフトも前回のお中元と比較すると、客単価の回復が見込める状況にない。冬物も買い渋りの状況が続いているため、景気は依然厳しい。
		百貨店（売場担当）	・所得増の望みが薄いなか、必要なものだけを吟味して買う傾向に変化はなく、テレビを除き消費の拡大は期待できない。
		スーパー（店長）	・食品ではビール類の売上が悪く、まだ景気回復の気配を実感できない。今後も節約思考は継続すると考えている。
		コンビニ（総務）	・景気対策や消費喚起などの施策が消費者に浸透し、経済環境の見通しが目に見えてこないと景気が良くなるとは思えない。
		衣料品専門店（総務担当）	・景気状況は好転しているといわれているが、店頭のお客様の消費志向は依然として上がっていない。セール品でも精査するお客様が多く、客単価も低下していることからまだ回復は見えていない。
		家電量販店（店長）	・冷蔵庫、エアコン、テレビの3品目は、エコポイント効果により、堅調に推移する。パソコンは、新しいOSを搭載したモデルが数多くそろっていることが奏功し、IT商品も動く。
		家電量販店（営業担当）	・収入の目減りのため、ここ数年、年末の家電の動きが徐々に小さくなる傾向がある。
		乗用車販売店（従業員）	・新型ハイブリッド車の爆発的な販売が落ち着いた感があり、年末にかけて、客の話題を集める特別な商品はない。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車に期待するが、大幅な受注増加は難しい。
		一般レストラン（経営者）	・周りで、倒産もしくは整理の話が相次いでおり、先々が非常に不安である。
		一般レストラン（経営者）	・ボーナスの減少などからお歳暮や買物を控える方向になると考える。
		その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・先行き不透明感があるので、外食支出は元通りになりにくい。
		都市型ホテル（経営者）	・今後の予約状況が芳しくないが、今までよりは若干良くなる予想。しかし、依然客単価は低下したままであり、良い悪い半ば、といったところである。
旅行代理店（支店長）		・新型インフルエンザのワクチン接種開始により、社会的不安の解消が期待されるが、年内の効果の表れは不透明である。また、旅行をはじめとしたレジャー産業での景気回復は他業種と比べて通常遅れがちであるため、先行きはいまだ不透明である。	
タクシー運転手	・高速道路料金引下げは、安売りのバスツアーの利用者増とはなっても、タクシーの利用者増には影響しない。タクシー利用客の増加がなければ売上収入も伸びない。		
タクシー運転手	・年末になれば、歓送迎会や忘年会等で、多少は夜の客も動くと思う。		
通信会社（管理担当）	・新規需要が画期的に伸長することは想定しにくく、端末買換えサイクルが短縮化される見込みも少ない。		
通信会社（支店長）	・消費者物価等が下落傾向にあり、その影響が出始めると思う。		
ゴルフ場（従業員）	・ゴルフシーズンであるが、例年と比較してそれほど変わらないと考える。		

	やや悪くなる	商店街（代表者）	・秋冬物商品の動きが非常に悪いため、12～1月は、冬物のバーゲンが早くなってセール期間も長くなる。各店とも在庫がかなり残りそうである。現状でも悪い状況だが、更に底が割れる感じも見受けられる。
	一般小売店〔乾物〕（店員）	・今後、インフルエンザが本格的に流行して、皆が外出を控えるようになったら売上に影響する。	
	百貨店（営業担当）	・収入面の不安から、購買を控えるという傾向が顕著に出ている。この傾向は2～3か月先も続く。	
	百貨店（営業担当）	・ファッション関連の秋物商品は前年に比べて動きが少ない。また、高額商品も前月同様に低調に推移している。購入単価が低下し、催事等でも同様の状況がみられる。	
	スーパー（店長）	・ここ数か月、デフレ傾向が続いており、スーパー各社とも安売りを中心にした販売戦略を展開している。また、客も、必要な物しか買わない状況が続いているため、状況は更に悪化する。	
	スーパー（企画担当）	・企業はコストダウンの傾向が続き、販売増加に向けた抜本的な取組が遅れている。恐らく冬のボーナスにも影響するので、クリスマス商戦、正月商戦と苦戦が予想される。	
	衣料品専門店（経営者）	・11～1月にかけては、衣料品業界にとってはハイシーズンになるが、前年同期にはそこそこの売上があった高額商品の売行きが相当鈍っており、販売単価下落のカバーが困難であり、今後もこの状況が続く。	
	乗用車販売店（営業担当）	・販売量及び来客数が、2～3週間前から急激に落ちている。一時的な動向であれば良いが、先行き不安である。	
	観光型旅館（経営者）	・予約状況を例年と比べると、11月は非常に悪く、12月も今のところあまり良くない見通しがない。	
	通信会社（企画）	・季節的要因もあるが、年末は解約数が増加することもあり、景気の先行きはやや悪くなる。	
	競艇場（職員）	・今後季節的にナイター開催がマイナス要因となり、場内での売上に悪影響を及ぼす。	
	美容室（経営者）	・不透明な景気の先行き状況やインフルエンザの蔓延等が不安材料となり、年末には若干の動きはあると思うが、年明けはまた悪くなる。	
	設計事務所（所長）	・新築工事の受注において、競争が激しく、受注単価は低下している。	
	悪くなる	商店街（代表者）	・商店街の通行量減少に歯止めがかからない。また、再開発もしくは集客力のある店舗の誘致のめども立っていないため、通行量が上がる要素もない。
	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・メーカー、大手全国系卸売業者、一部量販チェーンを除くと、地方都市の酒類業界（特に小売業）は総崩れ状態。意地と面子から、資産の現金化で何とか凌いでいる状態であり、貯蓄が尽きた順に廃業している。5年前、ごく一部の勝ち組と多数の負け組に分かれると予測したが、現状は更に悪化している。	
	スーパー（店長）	・お正月の売上に関しては、2年前は正月3日間はそれなりの売上があったが、昨年は元日しか、正月らしい売上がなく、今年も同じ状況を予想する。完全にデフレとなっており、不況感は更に強まっている。	
	衣料品専門店（経営者）	・先行きの不透明感があるため、なかなか買物に来ない。	
	設計事務所（職員）	・来年は、同業者、客先共に、賃金抑制等のリストラが一層強化されると聞いている。また、関係業者からは、今後の資金繰り面の見通しが立たないとの話題も多く出ている。年末から年度末にかけて、一段の景気の冷え込みを予想する。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・11～12月は最大の需要期になることと、インフルエンザ対策で除菌関連商品の販売が増加していることから、売上は若干良くなる。
	電気機械器具製造業（経営者）	・太陽光発電の施工・販売・設置に関する注文が増加している。また、電子部品の設備の受注、化学工業関連、電気関連の受注も順調に推移している。	
	通信業（部長）	・投資の是非を見極めてその効果をしんしゃくする余裕が出始めたと感じる。今後この傾向はしばらく続く。	
通信業（営業担当）	・量販店や大型スーパーのマネージャーから、年末商戦に向けた消費拡大施策等の決意、強気な発言を聞くようになった。		

変わらない	鉄鋼業（総務・人事統括）	・主要販売先は自動車産業等であり、春ごろから受注は増加してきたものの、伸びは鈍化しており、頭打ち感も感じられる。また、原料輸入で円高メリットを享受してきたが、更なる円高は予想しにくい。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・依然として需要の回復がみられない。	
	輸送業（社員）	・主要顧客に話を聞いても、受注の回復は見受けられず、今後も今年上期並みの取扱数量で推移する。	
	金融業（融資担当）	・客との会話、県内の動向等から判断すると、景気は当面変わらないと思う。	
	広告代理店（経営者）	・得意先の販売不振により広告費の削減状態が続いており、得意先とのコミュニケーションを図っても先が読めない状況が続いている。	
	公認会計士	・異業種の経営者と話をするなかでは、不動産価格等は下げ止まったという見方をする方が多いが、設備投資に積極的な方はごく僅かである。また、今後、政府がどのような経済政策を打って、それが効果が出るかどうかを見極めたいとの意見が多かった。	
やや悪くなる	木材木製品製造業（経営者）	・8月の新設住宅着工数が6万戸を割り、これが来年の内装品の受注低下に結びつく。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	・販売単価の下落が見込まれる。	
	建設業（総務担当）	・政権交代により、公共工事は減少しており、それにつれて、民間工事での受注獲得競争が熾烈になり、更なる収益悪化が懸念される。	
	不動産業（経営者）	・地方都市の不動産の流動性はかなり厳しい状態である。個人の場合は3千万円以上の物件はほとんど動いておらず、かろうじて動いているのは1千万円台の中古住宅である。今後の先行き不安から、ますます様子見の状態が続くであろう。	
	広告代理店（経営者）	・商品の販売動向が悪い状態がしばらく続くと思う。また、政権公約を鑑みても、企業への負担は明らかに大きくなるため、利益は更に少なくなると思う。	
悪くなる	-	-	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・中途採用市場の打開のために新商品、助成金が活用できる研修プログラム等を投入したが、企業は先行き不透明の業績のなかで、採用に慎重姿勢を示している。ただ、新規採用と研修の商品を提案していくことで、昨年同様の業績を確保する予定である。
		新聞社【求人広告】（担当者）	・雇用面が改善されず、求人広告業は低迷している。ボーナスが目減り確実であることもあり、年末年始にかけても好転の要素はない。
	職業安定所（職員）	・前年比での新規求職者数の増加傾向、新規求人数の減少傾向はしばらく続く。	
	学校【大学】（就職担当）	・今年度の求人数累計は、前年比約140人少ないが、足元では、7月は164人、8月は134人、9月は177人、10月下旬で126人の求人があり、安定してきている。	
やや悪くなる	求人情報誌製作会社（従業員）	・例年であれば忘年会時期に向けて飲食店のアルバイトが増える時期であるが、今年は忘年会の予約が少ないために求人を見送る店舗が増えている。	
	職業安定所（職員）	・管内への企業進出の話はなく、聞こえてくるのは人員整理の話ばかりである。福祉業界やIT業界では人手不足も見受けられるが、資格や経験で応募先が限定され、求人・求職のミスマッチが生じている。	
	職業安定所（職員）	・来年になると受注が10%削減となる大手企業があるなど、雇用環境は悪化が予想される。	
	民間職業紹介機関（所長）	・新卒、中途採用を控える企業が多くあり、有効求人倍率も一向に上昇する気配が無い。また、冬季賞与についても、前年を下回る企業が圧倒的に多い。	
悪くなる	-	-	